

自分の責任で自由に遊ぶ

ながはま冒険あそび場では、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーにしています。木登りや木のロープ遊び、秘密基地づくりなど普段できないことに挑戦したり、のこぎりやかなづちで何かを作ったり、草花摘み、木々のなかでのかくれんぼ、さらに、たき火で焼きリンゴ、卵焼き、竹パン作りなど、次々と、いろいろな遊びが生まれています。子どもたちの「やってみよう」を大切にして、とことん遊べる環境を作っています。

また、賤ヶ岳冒険遊び場は、平成24年11月に3人の母親が立ちあげ、毎月第2土曜日、木之本町大音の古民家を借りて活動しています。

世話人の三國陽子さんは、「今の遊び場は、子どもに遊びを与えてしまっている感じがして、何か違うと感じていました。偶然情報誌の冒険遊び場特集を見て、いつかはこういう遊び場を作ってみたいと思っていました」と話します。



1

古民家を活かして、地域の人も参加し、子どもから祖父母の場となっています。

子どもが子どもらしくある姿を

大人は、子どもの活発な遊びに、ついつい「あれダメ、これダメ」と口を出しがちです。でもそこでちょっと堪えて、子どもたちの遊びを見守りつつ、大人同士のコミュニケーションを楽しんでいます。

川瀬さんは、「学校では、勉強やスポーツの出来で評価されがちですが、遊びの場では、木登り名人、木工づくり名人、料理名人など、子どもそれぞれの特技が友達から評価され、それが子どもの自信へとつながっているように

す」と、遊び場のよさを強調します。

「子どもは、自然の中で、やってみたいことを体いっぱい使って夢中になって遊びます。体中泥んこになって遊んだり、時にはケンカや、やんちゃなこともします。子どもが



2

子どもらしくある姿をあたり前に認め、見守れる大人の輪をたくさん広げていきたい。そしていずれば、冒険遊び場がなくても、子どもの「やってみよう」を大切にできる世の中になってほしいですね」と期待を込めました。

子どもは遊びの天才と言われますが、その天才の芽を摘んでいるのは大人かもしれません。私たち大人が幼少時代、外で思う存分群れて遊んでいたように、今の子どもたちにも「遊び」を通じて、たくさんのかんことを体験させたい。「遊び」があふれる暮らし豊かなまちをつくるために、私たちには何ができるのか、今一度見つめ直してみよう。5月5日はこどもの日です。



3

1 できるかな、ドキドキワクワク、大人はハラハラ 2 木登り、こんな高いところまで初めて登れたよ 3 地域の人に見守られながら遊ぶ子どもたち 4 ロープと木で手づくりブランコ。気持ちいい！ 5 賤ヶ岳冒険遊び場

みんな気軽に遊びに来てね

～市内の冒険遊び場紹介～

ながはま冒険あそび場

- 活動日 毎月第3土曜日
- 活動場所 豊公園（公園町）
- 参加費 無料
- 持ち物 汚れてもよい服装（着替え）、水筒、おにぎり、焼いて食べたい食材

問 長浜市社会福祉協議会 ☎0749-62-1804

✉ nagahama_asobiba@yahoo.co.jp

Facebook <https://www.facebook.com/nagahama.asobiba>

賤ヶ岳冒険遊び場

- 活動日 毎月第2土曜日
- 活動場所 木之本町大音の古民家（賤ヶ岳リフト乗り場近く）
- 参加費 無料
- 持ち物 汚れてもよい服装（着替え）、水筒、おにぎり、焼いて食べたい食材

問 長浜市社会福祉協議会 TEL 0749-62-1804

✉ sizugatake_boukenasobiba@yahoo.co.jp

Facebook <https://www.facebook.com/sizugatake>



4



5